

身体感覚への志向意識を高める体づくり運動

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

前北 健太郎

1. 目的

本研究は、現代の子どもの身体感覚の希薄化という課題に対し、自らの身体感覚に能動的に注意を向ける「志向意識」に着目し、それを高める体づくり運動授業の特徴を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

研究方法として、金子明友（2002）の「動感論」を理論的基盤に据え、日常動作の異化や非日常課題による「動感のズレ」を誘発する授業プログラムを開発した。愛知県内の小学校で第6学年と第4学年を対象に実践を行い、アンケートによる量的分析と SCAT を用いた質的分析により、児童の変容プロセスを多角的に検証した。

3. 結果と考察

本研究では、児童が「自他の身体差の発見」から「動感のズレ」を自覚する過程を経て、身体を自ら探求すべき対象として捉える「身体知のメタ認知化」を促す構造を明らかにした。また、量的には表れにくい自己評価の「揺らぎ」こそが、身体への解像度が高まったことによる志向意識の深化を示す重要な指標であることを導き出した。